ἅλας
ハラス

知っておきたいキリスト教のことば （87）

塩 しお

仏教のお葬式に出ると、帰りに塩が入った小袋を渡されます。その塩は身を清めるために用いられるもので、参列者は家にはいる前に体に塩を振りかけます。

大相撲でもお相撲さんが土俵に大量の塩を撒きますが、これも土俵を清めるための儀式だそうです。

また古代ローマでも、生まれてきた赤ん坊のくちびるに塩を塗る習慣があったそうです。それは悪霊や悪魔は塩を嫌がると考えられてきたからです。ローマ・カトリックで洗礼のときに、志願者の舌に「知恵の塩」をのせるのも、その名残りかもしれません。

このようにあらゆる宗教や文化の中で、塩は象徴的な意味をもって用いられています。では聖書の中では、どのような意味を持つのでしょうか。

塩は味気なかった食材を、素晴らしい味にします。旧約聖書では、犠牲をささげるときに塩を使用するように定めます。犠牲を神さまに喜ばれるものにするために、塩をかけるのです。また同時に、犠牲は塩によって清められるとも考えられていました。

山上の説教の中で、イエス様は弟子たちを地の塩だと言います。塩が食材を保存する力を持つように、弟子たちは真理の言葉をしっかりと保持して、地のあらゆるところに伝えなさいというメッセージがここにはあります。

またパウロはコロサイの信徒への手紙 4 章 6 節で、「いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい」と書きます。塩は食材の腐敗を防ぎます。同じようにわたしたちもイエス様から与えられた言葉を腐らせることなく、多くの人たちのもとに伝えていかなければならないのです。

次回は「十戒」です。お楽しみに。

「ロトの妻の塩柱」
ソドム山

あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。

（マタイによる福音書 5 章 13 節）